



全員参加の、役に立つEA21の仕組みとは？ (連載 第19回) 「取組状況の確認及び評価」で社員の自律を促す (その1)

2017年版ガイドラインの要求事項13「取組状況の確認・評価並びに問題の是正及び予防」には、何のために、取組状況を定期的に点検するか、その目的が書かれています。ガイドラインには書かれていませんが、実はもう一つの目的があります。そしてこちらの方が「真の目的」と言ってよいでしょう。

まず、ガイドラインに書かれている目的は次のとおりです。

- ◆環境経営の取組の有効性の向上を図ること

もう一つの隠された真の目的とは、

- ◆経営体質を強くすること。
- ◆自律的に動く社員をつくること。

では、ガイドラインに書かれている目的を達成するためには、どうすればよいのでしょうか？

一言でいえば、ガイドラインの要求事項13を満たせばよいことになります。

問題は、この取組が皆さんの会社の中で、**形式的**になっていないでしょうか。**形式的**というのは、環境経営計画で、それぞれの取組項目の担当責任者を割り当てているにもかかわらず、この「取組状況の確認及び評価」を担当責任者が行わず、環境事務局が文書上で済ませてしまっている。また、環境の取り組み状況についても、実施記録等をとらず、部門の担当者に実態ではなく、感覚で口頭で答えをもらう、といったことです。

要求事項の第1は、以下の項目を**適切な頻度**で**確認・評価**すること。

- ①環境経営目標の達成状況
- ②環境経営計画の実施状況
- ③環境関連法規などの遵守状況
- ④重要度の高い環境負荷の状況及び取組の実施状況

要求事項の第2は、上記の確認・評価の結果、問題がある場合は、**是正処置**を行うこと。問題の発生が予想される場合は、**予防処置**を実施すること。

さて、ひとつひとつみていきましょう。

①環境経営目標の達成状況

大半の目標は数値目標でしょうから、達成状況は明確に把握できます。

即ち、目標値と実績値を比較することで「確認」できるわけです。「評価」はどうでしょう？ 単に達成〇、未達成×で「評価」した、と錯覚していませんか？

これは「評価」ではなく、単なる「確認」です。

「評価」するには、数値の意味を深掘りすることと、②項の結果と合わせた分析することが必要です。

詳細については次回。

(審査員：須田 昭)

お知らせ EA21 産業廃棄物処理業者向け 2017 年版ガイドライン発表

EA21 の2017 年版ガイドラインについては、一般向けガイドライン、建設業者向け及び食品関連事業者向けのガイドラインが発表されていましたが、2019年5月に業種別ガイドラインの内の産業廃棄物処理業者向けのガイドライン2017年版が発表されました。他の新ガイドラインと同様、「代表者による経営における課題とチャンスの明確化」が要求事項に追加されています。

お知らせ 省エネ診断を受けて、CO₂ 及びコスト削減しませんか

省エネを進めたいが、どのようにやったらわからないという悩みをよく聞きます。埼玉県等で省エネ診断や省エネの指導をしてくれる無料の制度があるので紹介します。是非利用してみてください。

① 中小事業者向け省エネ診断（埼玉県省エネナビゲーター事業）

連絡先：埼玉県環境部 温暖化対策課 計画制度・排出量取引担当、TEL048-830-3021

ホームページ：<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0502/shouenenavi.html>

② 省エネルギーセンターの無料省エネ診断

連絡先：一般財団法人省エネルギーセンター 省エネ診断事務局、TEL：03-5439-9732

ホームページ：<https://www.shindan-net.jp/service/shindan/>

③ 埼玉県省エネ促進プラットフォーム

省エネ診断は省エネの気づきまで与えてくれますが、この省エネプラットフォームでは、省エネ診断結果を基に、実際に省エネを行えるように専門家が会社に来て無料で指導をしてくれます。

連絡先：認定特定非営利活動法人 環境ネットワーク埼玉、TEL048-749-1217

ホームページ：<https://www.kannet-sai.org/>

情報 マイクロプラスチック問題（その2）

前回マイクロプラスチック問題の概要をまとめましたが、今回はプラスチック流出の状況や被害・対策等について説明します。

日本から海に流出しているプラスチックの量はそれほど多くない(世界30位)ですが、日本人1人が使うプラスチックの量は世界第2位と非常に多くなっています。これまで日本は廃プラスチックを中国等に輸出して処理してもらってきましたが、中国が廃プラスチックの輸入を禁止したことにより、処理ができず困っています。最近他の東南アジア諸国への輸出が増えています。世界でも東南アジアから海に流出するプラスチックの量が多いため、結局日本の方に流れてきて、日本周辺の海洋中のプラスチックの量は多くなっています。



写真 荒川河口部のプラスチックゴミ
出典：荒川クリーンエイド・フォーラム

プラスチックの影響では、海の生物がビニール袋をのどに詰まらせて窒息するといったような物理的影響と、PCBや農薬等の有害な化学物質がプラスチックに吸着され、それが最終的に人体に入って健康に影響を与える化学的影響とがあります。化学的影響については、まだはっきり証明されたわけではありませんが、プラスチックに吸着された有害化学物質の影響が食物連鎖等を通して今後どのように出てくるかが問題となります。

現在プラスチックがない生活は考えられないような状況になってしまいましたが、対策としては、個人では、レジ袋をもらわない、ペットボトル等の使用をやめマイボトルを持ち歩くこと等が考えられます。また、企業ではプラスチックの食器や容器や包装等の削減、生分解性プラスチックの採用等が進められています。

NPO法人彩の国環境活動推進会(略称：NPO法人彩進会)とは・・・“低炭素社会形成に貢献”

県内における環境活動の推進を図る目的で、主にEA21 審査員で構成されたNPO法人組織です。環境経営システム構築・推進、省エネや省資源、モノづくりにおける不良低減や生産性向上などの生産性改善ならびに地球温暖化防止のための二酸化炭素排出抑制の関連制度や技術の開発研究、普及推進等の活動を実施している専門家集団です。 URL：<http://www.npo-saishinkai.com>